

平成29年度FD講演会

「アクティブ・ラーニング&教育・研究」の現状に関する事前アンケート
集計結果 (n=34,未記入1)

	人数	
①学部		
教養教職センター	2	
環境園芸	8	
人間発達	8	
健康栄養	16	34
②学科		
教養教職センター	2	
環境園芸	8	
子ども教育	8	
食品開発科	5	
管理栄養	11	34
③キャンパス		
宮崎・都城	2	
都城	16	
宮崎	16	34
④在籍年		
0～5	19	
6～10	4	
11～15	6	
16以上	5	34

	人数
2. アクティブ・ラーニング（学習者の能動的な参加を取り入れた、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び）について	
1. アクティブ・ラーニングを授業で実施していますか？	
1) 実施している	17
2) 実施していない	16
未回答	1
2-1 アクティブ・ラーニングを実施していない方にお聞きします。	
今後、アクティブ・ラーニングを実施する予定はありますか？	
1) できれば実施したい	7
2) 今後も実施する予定はない	7
未回答	1
2-2 アクティブ・ラーニングを実施しない理由で該当するものを選んでください（複数可）。	
1) 時間がない	3
2) アクティブ・ラーニングの言葉と意味がよくわからない	4
3) アクティブ・ラーニングをどのように行ったらいいかわからない	5
4) アクティブ・ラーニングの成果が見えにくい	2
5) アクティブ・ラーニングは必要ない	1
6) その他（ ）	1
未回答	1
2-3 アクティブ・ラーニングをできれば実施したいと答えた方にお聞きします。	
どうすれば、実施できそうですか。該当するものを選んでください（複数回答可）。	
1) アクティブ・ラーニングに関する情報提供	4
2) アクティブ・ラーニングに関する資料・教材の提供	2
3) アクティブ・ラーニングに関する教員間の情報共有	1
4) アクティブ・ラーニングに関する研修会の開催	2
5) アクティブ・ラーニングを実施している他大学との連携	0
6) アクティブ・ラーニングが実施しやすい教室を増やす	3
7) アクティブ・ラーニングが実施しやすい機材を増やす	3
8) アクティブ・ラーニングを実施するための時間の確保	2
9) その他（ ）	0
未回答	1
3. アクティブ・ラーニングを実施している方にお聞きします。	
対象は誰ですか？（複数回答可）。	
1) 大学1年生	7
2) 大学2年生	9
3) 大学3年生	15
4) 大学4年生	11
5) 大学院生	0
未回答	2
4. 授業の人数は何人くらいですか？（複数回答可）	
1) 1~10名	9
2) 11~20名	8
3) 21~30名	4
4) 31~40名	9
5) 41~50名	4
6) 51~80名	7
7) 81~100名	1
8) 101名以上	2
未回答	1
5. 15回の授業の何%くらいをアクティブ・ラーニングで行っていますか？（複数回答可）	
1) 100%	4
2) 80%	7
3) 50%	4
4) 30%	6

5) 10%	4
未回答	2
6. アクティブ・ラーニングの授業について学生の反応はどのようなものですか？（複数回答可）	
1) 普段の授業よりも積極的に参加している	9
2) 議論が深まっている	8
3) 積極的に参加する学生と参加しない学生がいる	14
4) 面白い意見が出てくる	12
5) 学生同士の学びが増えている	12
6) その他（ ）	2
未回答	2
7. アクティブ・ラーニングを実施する目的は何ですか？（複数可）	
1) 学生の出席率を上げるため	1
2) 学生同士がお互いに仲良くなるため	2
3) 学生同士の学びあいをすすめるため	15
4) 授業の内容について議論を深めるため	11
5) 学生が自ら課題に気づけるようになるため	15
6) 学生が課題に積極的に関わられるようにするため	16
7) フィールドワーク等の準備に活かすため	2
8) そのほか（ ）	1
未回答	0
8. アクティブ・ラーニングを行う上でどのような問題・課題がありますか？（複数可）	
1) 時間がない	5
2) 資料や教材がない	5
3) 準備に手間がかかる	12
4) 成果が見えにくい	7
5) 本来の授業とつながらない	4
6) ただの遊びになってしまう	4
7) 他の教員の理解がない	1
8) 学生のやる気がない	5
9) その他（ ）	6
未回答	0
9. アクティブ・ラーニングを実施する上で、どのような支援があると進めやすいですか？（複数可）	
1) アクティブ・ラーニングに関する情報提供	6
2) アクティブ・ラーニングに関する資料・教材の提供	10
3) アクティブ・ラーニングに関する教員間の情報共有	6
4) アクティブ・ラーニングに関する研修会の開催	5
5) アクティブ・ラーニングを実施している他大学との連携	1
6) アクティブ・ラーニングが実施しやすい教室を増やす	14
7) アクティブ・ラーニングが実施しやすい機材を増やす	9
8) アクティブ・ラーニングを実施するための時間の確保	2
9) その他（ ）	0
未回答	1
10. アクティブ・ラーニングを実施する際に、他団体と連携や協力を行っていますか？ または、今後行う予定ですか？	
1) 行っている	6
2) 行っていない	15
3) 今は行っていないが今後行う予定がある	0
未回答	1
11. 他団体と連携や協力を行っている方にお聞きします。 どのような団体と連携・協力を行っていますか？	
1) NGO/NPO	1
2) 企業	4
3) 自治体・政府	3
4) 他大学	1
5) 国際機関	0

6) 他の教育機関	1
7) メディア	0
8) その他 ()	2
未回答	2
1 2. 学生の教育（実習等を含む授業・専攻生指導など）に関して多忙や負担を感じますか。	
1) 大いに感じる	7
2) やや感じる	16
3) あまり感じない	6
4) まったく感じない	2
未回答	0
1 2-1 「大いに感じる」「やや感じる」と回答された方にお尋ねします。	
主にその原因と考えられることはどんなことですか。以下からいくつでも選んで回答ください。	
①授業の準備に十分時間がかけられない（資料の作成・印刷、スライドの作成、実習・演習の準備等	13
②授業のための予算が足りない	0
③教育力向上のための専門研修が少ない	5
④講義室・実習室の環境が不十分（マイク・AV機器・PC配備・椅子や机・実習実験機器など）	7
⑤学生の授業態度（遅刻・欠席・課題への取組み方・居眠り・スマホ・私語 等）	11
⑥その他()	4
未回答	1
1 3. 自身の研究活動に関して多忙や負担を感じますか。	
1) 大いに感じる	8
2) やや感じる	11
3) あまり感じない	13
4) まったく感じない	2
未回答	0
1 3-1 「大いに感じる」「やや感じる」と回答された方にお尋ねします。	
主にその原因と考えられることはどんなことですか。以下からいくつでも選んで回答ください。	
①研究に従事するための時間が十分とれない	17
②研究のための予算が足りない	9
③研究のための施設・設備が十分でない	4
④研究者の資質向上のための体制が十分でない（研究倫理・守秘義務・専門性向上等）	3
⑤その他()	2
未回答	1
1 3-2 あなたは、今年の同時期と比べ、自身の研究活動がより充実していると思いますか。	
1) はい	8
2) いいえ	13
3) どちらともいえない	11

平成29年度FD講演会「アクティブ・ラーニング & 教育・研究」の
現状に関する事前アンケート集計結果 (n=34,未記入1)

1 4. 本学の教育・研究における強みや特徴はそれぞれ何だと思えますか。

- ・本学の教育における強みや特徴 ()
- ・教員と学生の距離が近く、親身になって相談に応じてくれる教員が多い。
- ・県内唯一の管理栄養士養成機関であるため、特に地元における学生募集に有利。
- ・実践的な指導が行える。
- ・生徒と先生の距離が近い(生徒目線の良い先生が多い)
- ・実学に根差した教育ができること。少人数教育(学生に対して目が届きやすい)
- ・学生を身近に感じて教育できる。距離が近い。
- ・充実した国家試験対策、学生募集にもつながる
- ・丁寧な学生指導ができています
- ・学生との距離が近い。
- ・実習が多い、②園芸から造園まで幅広く学べる、③環境がいい
- ・小規模大学であり、学生一人一人に目が届きやすい。
- ・国家試験対策
- ・学生のレベルに合わせた教育
- ・素直な学生が多い
- ・宮崎県内で、唯一の管理栄養士養成課程の学科を有する大学であることが強みである。
- ・農業高校の出身者が多く、卒業後も母校へ戻って教鞭を取る卒業生がいる点は、入学生を集めるうえで、強みである。
- ・食や健康づくりの現場経験者や企業とのコラボなどを行っている教員がほとんどで、より実践的な教育が行われやすい。
- ・少人数教育
- ・教員の裁量に任されている割合が高く、教員同士が切磋琢磨する機会が少なく、教育の質に幅が生じていること。一方で、誰に干渉されることなく、自由な教育も可能である。
- ・地域との連携課題が多く、これらを学生の教育に活用できる点
- ・教育機関に多くの卒業生を輩出している
- ・教育のために工夫はあると思うが、一体となったものではなく、個々ばらばらのように感じる
- ・教員と学生の距離の近さ
- ・地域の協力を得やすいこと
- ・学生が教員にいつでも指導を受けることができること。
- ・子どもと接する機会、学校現場とつながる機会を設けており、理論と実践を結びつけやすくしている。
- ・食・緑・人に関する実学教育

・教員と学生の距離が近い。親密性、研究室と学生の学習室との距離など。

・人間教育:人格形成

・学生が素直なところ と 実学・現場主義

・実学を重視した教育課程の編成。

1 4. 本学の教育・研究における強みや特徴はそれぞれ何だと思えますか。

・本学の研究における強みや特徴 ()

・関連研究への競合先が少ない。逆に研究向上への環境づくりが課題。

・生産現場に近い研究を実施できる

・生産現場に直結した研究成果が得られる(ように今後研究を実施していく)。

・宮崎の農産物など地域の素材を利用した研究が実施可能なこと。

・地域連携できること

・他大学に比べると研究費が充実している

・個人の力量による。

・不明

・農に関する学部と食に関する学部があり、共同研究ができる可能性を持っている。

・地元・地域との食の連携活動を積極的に行っている

・地元の組織と連携した研究活動

・自由

・学部間で、共同研究(例:環境園芸学部と健康栄養学部)を実施することも可能である。

・食に関する団体とのコラボが行いやすい。

・科研費にとらわれない自由性

・研究成果に対する評価がほとんどなく、研究の質や量に幅が生じている。しかし、研究テーマを自由に選択することができ、独自の成果を上げることも可能である。

・地元素材が豊富にあり、更に素材研究部門(環境園芸学部)を有している環境でもあることが本大学の最大の強みであると考えている。しかしながら、現時点では連携がとれていないので強化が不可欠

・本学の研究の特徴についてはまだよくわからない

・個別性の尊重

・特になし

・子どもと教育の現実に即した研究を重視している。

・園芸・造園, 食, 人間発達に特化した研究

・地域の関係団体との連携が

・実践的内容の充実

・研究領域の多様性があるところ

15. 今後、本学の教育・研究力を向上させるには、どのような取組みがあるといいでしょうか。

・講義の内容によっては、アクティブラーニングを取り入れていきたいと思う。

・(アクティブラーニングからは外れるが、私個人の意見として)本学の特徴でもある実践的な研究、指導を行っていくうえで、学生(先生)一人当たりの温室の数が不足しているように感じられる。特に、講座配属以降(3,4年)の学生については、卒論を書くために研究を行うが、1人当たりの温室の面積がかなり不足していると感じる。

・本学科は農業高校出身者も多いことから、本学をさらに魅力ある大学にするためには、都会の大学にはない規模で実験が行えるような温室スペースの整備・確保を行えば、より良い研究・指導が実践できるものと考えられる。

・学科間及び学部間で連携した教育・研究活動が体系的に実施できるようにする。

・研究を組織的に協力して行っていく

・教員1人に対する学生数を少なくする、講義数を教員間で均一にする、研究日を設け、研究に専念できる日程を確保する

・リメディアル教育/できる学生を伸ばす/研究室間・外部との共同研究

・教員間の連携、コミュニケーションの強化、②学部長、学科長役職の事務作業軽減→学部、学科のとりまとめに尽力する

・特にありません

・(管理栄養学科)卒論発表会 (こんなことをしたら合格率が下がりますかね・・・)

・若手の教育力、研究力を向上するための支援環境 (共同研究のあり方?)

・時間と気持ちの余裕が必要です

・すでに、GPA評価基準を設けて、成績優秀者を表彰するなどの取組みがされていますが、学習意欲の高い学生を育成していくことが学園全体の発展につながると考えます。

・教育は研修でも良いが、研究に関しては内部と外部にアドバイザーがいると良い。

・教授の下で研究を手伝ってくれる有能な助手がいるとよい。

・授業参観の義務化やモデル授業の開催など、教育の質向上をもう少し前向きに進める必要がある。研究に関しては、成果の評価は必要があるが、テーマ選定についてはこれまでの自由度が阻害されない方がよいと考える。

・14で述べている如く、大学関連学部のベクトル合わせでブランド化を図っていくことが必須であるも、研究推進するための機器・設備がない。これを補うためには県研究施設との共同研究体制をとる必要がある。

- ・お互いに情報を共有できる仕組み・組織が必要ではないでしょうか。
- ・少なくとも子ども教育学科は、教育にしろ研究にしろ目指す方向を明確にした方が良いのではないかと
また、基礎学力に課題のある学生が多い現状を考えると、文章を読み取る力や日本語の文章をしっかりと書く力の底上げを
図り、その上でアクティブラーニングを取り入れた授業の展開を考えることが必要に思う。
- ・研究に関して、他教員とのディスカッションの機会や、他教員から助言を受けられる体制
- ・教育: 学士管理を厳しくすること。
- ・学内における研究会や共同研究をしやすい環境づくり。
- ・教育・研究力を向上させるには、そのための時間が取れるようにする。例えば、業務の効率化や学生の自主性を引き出すように取り組む。
- ・教員・学科間・キャンパス間で連携した教育・研究活動の推進。
・連携活動を推進するためには、学長裁量経費などの補助(スタートアップ経費)があると活動しやすい。
- ・この様な研修会を続けてほしい
- ・まずは、1) 昨今の高等教育に関する先進情報の取得とその理解と、それに対する2) 教職員体制の改善が必要だと
考えます。